

— 多様な主体による協働のまちづくり —

# わたしたちの 身近な暮らしにある 「助け合い、支え合い」



わたしたちの身近な暮らしの中には、住み慣れた地域が「いつまでも暮らしやすく、これからも住み続けたい」と、皆さんが感じられる地域社会をめざした取り組みが多く行われています。

地域に暮らす皆さんをはじめ、自治会や地区公民館、地域活動団体、事業者などの皆さんが協力や連携したり、協働して取り組まれてきた事例を今月から3回シリーズで紹介します。今回は、対話を通じて地域の課題を共有し、さまざまな立場の皆さんと一緒に取り組まれている事例を取り上げました。

図 企画財政課 ☎ 43-9015

## 事例 2

### — 地区公民館を 区民憩いの場に — 「金屋公民館へ行こう！」

## 金屋区

など、地域の子どもから大人まで  
がつながる機会を大切にされてい  
ます。

金屋区では、令和2年度から区民に開かれた憩いの場づくりを検討し、4年度から「金屋公民館へ行こう！」事業に取り組まれています。

本年度から毎月第2日曜日を「公民館開放日」として、区民交流の活性化に取り組みられているほか、7月28日には第3回目となる「金屋公民館へ行こう！」を開催。地域で採れた野菜の販売や宮津天橋高校合唱部によるステージ、環境にやさしいリユースの取り組み



体験型ワークショップや地元野菜などの販売で子どもから大人まで楽しめた「金屋公民館へ行こう！」 ※ 昨年の様子

## 事例 1

### — みんなでつくる — 「豊かな暮らしが100年後 にもつながる地域」

## 岩屋区



特定非営利活動法人岩屋熱気球による岩屋朝市

岩屋区では、加速する人口減少と少子高齢化によって区民生活が大きく変化する中、地域の現状と課題を共有し、地域の強みや地域がめざすべき姿について語り合う対話の場が生まれ、地域の守りたいものや残したいものに取り組む地域活動団体が生まれてきました。



岩屋区内の医院跡で開かれている岩屋かひえ

## 事例 3

### — 地域資源の活用 — 「100年後も鉄道とともに あるまち」

## 山田エリア

令和7年7月に開業100周年を迎える与謝野駅。今、山田エリアでは100周年を契機として、地域・事業者・行政がそれぞれの強みを生かしながら、鉄道、まちの玄関口の駅、空き家など、地域資源を生かしたまちづくりによる地域活性化が進められています。



与謝野駅で開催されたイベントの告知チラシ

### 住み心地のよい地域へ

わたしたちの暮らしは、一人ひとりの志や強み、得意を生かした活動や取り組みに支えられています。「誰かがやっている」まちづくりから「わたし(たち)にもできる」まちづくりへ。

助け合い、支え合う豊かな関係で、住み心地のよい地域を守っていきましょう。